

令和4年度 いわき市中心市街地活性化基本計画の最終フォローアップに関する報告
 令和5年5月
 いわき市（福島県）

I. 中心市街地全体に係る評価

○計画期間：平成29年4月～令和5年3月（6年）

1. 計画期間終了後の市街地の概況

本市では、平成29年3月24日に中心市街地活性化基本計画の認定を受け、「人、暮らし、文化を大切にす豊かさと活力とを備えた中心市街地」を基本テーマに掲げ、官民が連携しながら、中心市街地の活性化に取り組んできた。

計画期間中、埋蔵文化財の発掘調査や新型コロナウイルス感染症など、計画策定時に想定できなかった事情により、主要事業の進捗が遅れるなどの課題も生じたが、計画期間終了後においても、着実に活性化に向けた取組みが展開されており、今後の賑わい創出が期待できる状況である。

〈計画期間に生じた課題等〉

主要事業である「いわき駅並木通り地区第一種市街地再開発事業」、「地域密着型商業施設整備事業」や「都市公園整備事業（〈仮称〉磐城平城・城跡公園）」が、埋蔵文化財の発掘調査などの影響により、進捗が遅れが生じ、計画期間内に完了することはできなかった。

また、新型コロナウイルス感染症の影響が長期にわたって生じたことから、市民の外出控えが生じ、中心市街地における「主要歴史・文化施設」などの入込客数が、大幅に減少した。

一方、これまでの取組みが呼び水となり、計画策定時に予定していなかった民間事業者による開発が進められた（令和5年1月に JR 東日本が、いわき駅南口にホテルや商業施設を新規開業。また、いわき駅北口においても、令和7年度に松村総合病院の移転が予定されている）。

〈計画期間終了後の状況・見通し等〉

計画期間内に完了できなかった3つの主要事業は、令和5～6年度の完了に向け、現在、着実に事業を進めている。

新型コロナウイルス感染症の5類移行により、社会活動や経済活動が徐々に回復している。中心市街地で行われていたお祭りやイベントについても再開されてきている。

病院の移転も着実に進展しているほか、高校生をはじめとした若者による賑わい創出に向けた取組みも展開されはじめている。

こうしたことから、徐々にではあるが人流回復、賑わい創出が進み、期間中に達成できなかった目標指標である「中心市街地居住人口」「主要歴史・文化施設入込客数」が増加するほか、目標を達成していた「中心市街地新規出店数」もますます増加することが期待できる。

[参考]目標指標の達成状況（※「II. 目標ごとのフォローアップ結果」で後述）

目標	目標指標	基準値	目標値	基準値から目標値までの幅の8割ライン	最新値		達成状況
					(数値)	(年月)	
生活環境の充実によるまちなか居住の促進	中心市街地内の居住人口	4,133人 (H28)	4,400人 (R4)	4,347人	4,223人	R5.3	b2
新規出店の促進による事業活動の活性化	中心市街地内の新規出店数	26件 (H23～27)	52件 (H29～R4)	47件	89件	R5.3	A
歴史・文化資源を活かした賑わいの創出	主要歴史・文化施設の入込客数	1,226,198人 (H27)	1,263,000人 (R4)	1,255,640人	642,747人	R5.3	c

<達成状況の分類>

- A：目標達成、B1：概ね目標達成（基準値から目標値までの幅の8割ラインを超えている）、
- B2：基準値より改善（基準値から目標値までの幅の8割ラインには及ばない）、C：基準値に及ばない
- ※関連事業等が予定どおり進捗・完了しなかった場合は小文字（注：小文字のa、b1、b2、cは下線必要）

2. 計画した事業等は予定どおり進捗・完了したか。また、中心市街地の活性化は図られたか。(個別指標ごとではなく中心市街地の状況を総合的に判断)

【進捗・完了状況】

①概ね予定通り進捗・完了した

②予定通り進捗・完了しなかった

【活性化状況】

① 活性化した

②若干活性化した

③計画策定時と変化なし

④計画策定時より悪化

3. 進捗状況及び活性化状況の詳細とその理由(2.における選択肢の理由)

進捗状況については、以下の点を考慮し、「①概ね予定通り進捗・完了した」と判断した。

- ・計画に位置づけた事業について概ね着手していること。
- ・埋蔵文化財の発掘調査や新型コロナウイルス感染症など、計画策定当初には想定していなかった事態の影響を受けて完了が遅れている事業はあるが、令和5～6年度の完了に向け、現在も着実に事業が進められていること。
- ・3項目の目標指標のうち、「中心市街地内の居住人口」「中心市街地内の新規出店数」の2項目において、基準値から改善がみられること。残りの指標である「主要歴史・文化施設入込客数」も、新型コロナウイルス感染症の5類移行後の回復が期待できる状況であること。

活性化状況については、以下の点を考慮し、「②若干活性化した」と判断した。

- ・基準年値(平成28年度)と比較し、市全体では居住人口が6.14%減となっているのに対し、中心市街地内の居住人口は2.18%増であり、生活環境の充実が進んでいると考えられること。
- ・同じく基準年値(平成23～27年度)と比較し、中心市街地内の新規出店数が3倍以上に増加しており、事業活動の活性化が進んでいると考えられること。
- ・計画開始以降、中心市街地内の商業地の地価は、毎年上昇しているほか、民間事業者による新たな開発(ホテルや商業施設の新規開業、病院移転)なども進められており、エリアの価値向上が図られていると考えられること。
- ・一方で、3項目の目標指標のうち、「中心市街地内の居住人口」「主要歴史・文化施設入込客数」の2項目で目標値未達(前者は基準値から改善している)となっていること(そのため、「①活性化した」ではなく、「②若干活性化した」とした)。

[参考]中心市街地の状況に関する基礎的なデータ(基準日:毎年度1月1日)

(1) 居住人口

(単位:人)

(中心市街地区域)	H28年度	H29年度 (1年目)	H30年度 (2年目)	R元年度 (3年目)	R2年度 (4年目)	R3年度 (5年目)	R4年度 (最終年度)
人口	4,189	4,130	4,246	4,337	4,360	4,370	4,282
人口増減数	20	▲59	116	91	23	10	▲88
自然増減数	▲25	▲31	▲27	▲31	▲36	▲34	▲34
社会増減数	45	▲28	143	122	59	44	▲54
転入者数	328	328	392	418	406	376	374

(2) 地価公示(用途:商業地)

(単位:円/㎡)

	H28年度	H29年度 (1年目)	H30年度 (2年目)	R元年度 (3年目)	R2年度 (4年目)	R3年度 (5年目)	R4年度 (最終年度)
平字三町目28番 (いわき駅から200m)	155,000	156,000	158,000	160,000	163,000	166,000	174,000
変動率(%)	2.0	0.6	1.3	1.3	1.9	1.8	4.8
平六町目3番12内(い わき駅から720m)	68,700	70,000	71,300	72,700	74,100	76,000	78,800
変動率(%)	2.1	1.9	1.9	2.0	1.9	2.6	3.7

4. 中心市街地活性化基本計画の取組等に対する中心市街地活性化協議会の意見

【活性化状況】

- ① 活性化した ②若干活性化した ③計画策定時と変化なし ④計画策定時より悪化

令和4年度で、1年間の延長を含む6年間の事業計画期間が終了した。

平成29年の基本計画認定から、市、商工会議所、中心市街地活性化協議会、まちづくり会社が緊密に連携しハード、ソフト両面において、きめ細やかな支援体制を構築することができた。特に、ハード事業では、「いわき駅並木通り地区第一種市街地再開発事業」や「地域密着型商業施設整備事業」が推進されており、当初の計画から3～4年程度の遅れが見込まれているものの、着実な進捗が図られている。

また、基本計画への位置付けは無いが、これらの開発事業に呼応する形で、いわき駅に隣接するホテルや商業施設が開業し、駅北口では、令和7年を目途に総合病院の移転が計画されるなど、更なる活性化が期待されている。

一方、駅前を中心とする商店街エリアの状況を概観してみると、コロナ禍の影響は、依然として残るものの、駅周辺で開催されたイベント等には、多数の来場者が確認できた。特に、駅に近い、銀座商店会、平二町目商店会、平三町目商店会等では、来街者の増加が確認されたものの、駅から比較的距離を有する商店街においては、その波及効果は小さかったものと推認される。

以上のような状況を踏まえ、商店街区による来街者の増減には、多少のばらつきはあるものの、今後、並木通り再開発事業と地域密着商業施設の相乗効果により東西方向への人の流れが増加し、中心市街地において更なる賑わいが作られていくものと思われることから、基本計画の推進は、中長期的な観点から効果的であったと評価する。

認定基本計画は終了するが、市、商工会議所、中心市街地活性化協議会、まちづくり会社が連携して継続的な支援を続けていきたいと考える。

5. 市民意識の変化

【活性化状況】

- ① 活性化した ②若干活性化した ③計画策定時と変化なし ④計画策定時より悪化

市民意識の変化については、アンケート調査の経年比較（前回：平成27年、今回：令和5年）において、評価項目として設定した13項目のほとんどの分野（12項目）で、満足度に大きな変化が見られなかったことから、「③計画策定時と変化なし」と判断した。

【参考】アンケート調査（平地区中心市街地に関するアンケート調査）の概要

○調査期間：令和5年4月7日～令和5年4月26日（※前回：平成27年9月）

○調査対象：令和5年4月1日現在において本市に住民票を有する満18歳以上の者のうち、中心市街地効果波及地域（※）に居住する者

※ JRいわき駅を中心とした半径2km程度のエリアにおいて、本計画記載事業達成の効果が特に波及すると想定されるエリア。

○対象者数：1,000人（※無作為抽出、前回：1,000人）

○回答者数：338人、回収率：33.8%（※前回：526人、52.6%）

○調査事項：今後のまちづくりにおける重要度／中心市街地の現状の満足度

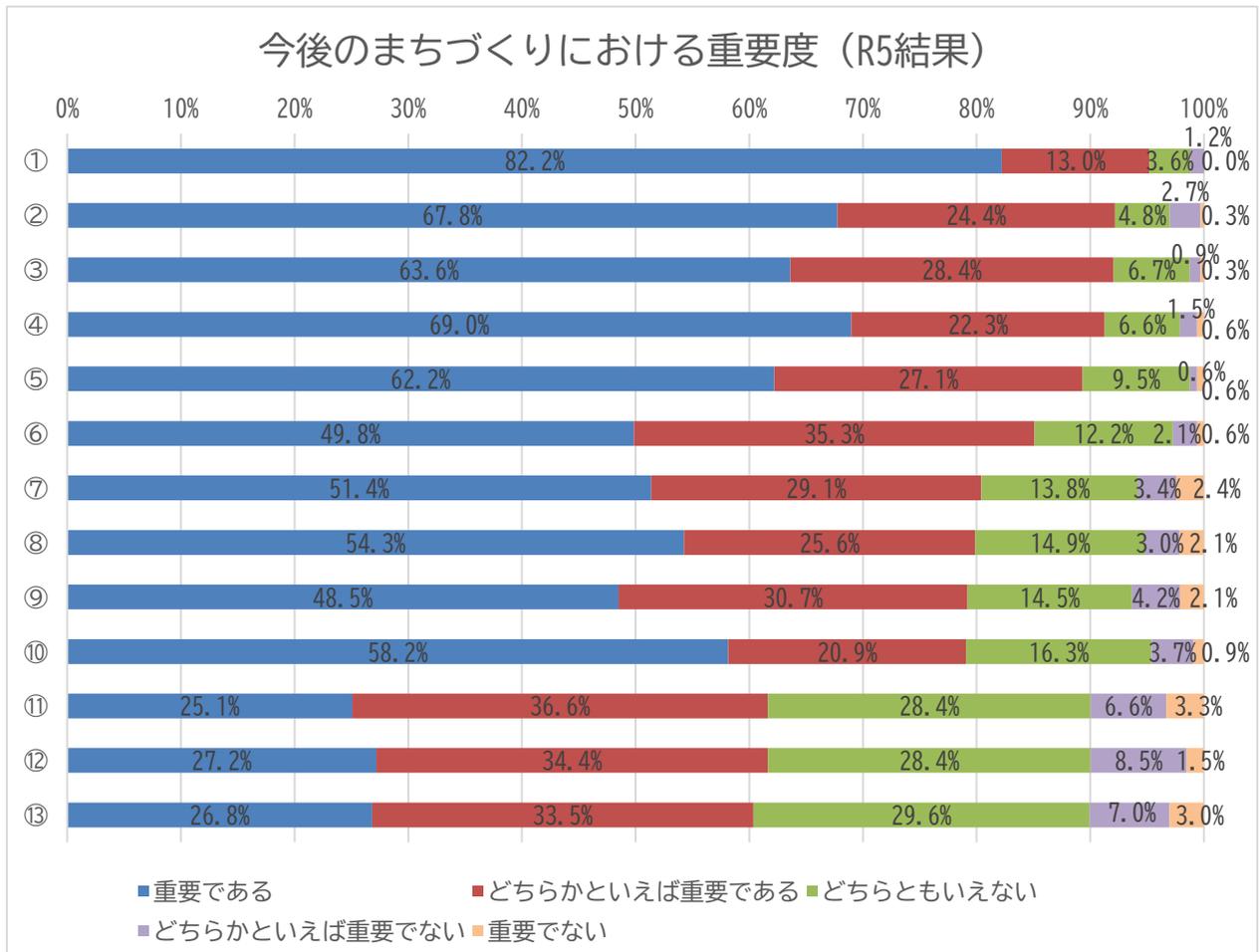
（評価項目）

- ①安心・安全なまちづくり ②内科や歯医者など、身近な医療機関の充実
③歩道のバリアフリー化など誰にでもやさしい歩行空間の充実
④日常的な買物や飲食ができる店舗の充実 ⑤歩いて楽しい魅力的な歩行空間の充実
⑥安らげる公園や緑地の充実 ⑦自転車の走行環境の充実（歩行者と自転車の分離等）や駐輪場の拡充
⑧バスの路線、便数の充実 ⑨高齢者向けの福祉施設の充実 ⑩子育て支援施設・教育施設の充実
⑪地域住民が交流・会合できる空間の充実
⑫健康維持・健康増進施設（フィットネスクラブ、リフレッシュ施設等）の充実
⑬自己啓発・生涯学習施設（公民館・カルチャースクール等）の充実

[参考]アンケートの主な分析結果の概要

〈今後のまちづくりにおける重要度に関して〉

・「①安心・安全なまちづくり」・「②内科や歯医者など、身近な医療機関の充実」については、今後のまちづくりにおける重要度が高く、さらに、「満足している」及び「どちらかといえば満足している」の割合も高い結果になっている。実際に計画期間の6年間で居住人口が増加していることから、中心市街地は居住環境が評価されて、暮らしやすいまちとして選ばれているといえる。



〈中心市街地の現状の満足度に関して〉

・13項目のうち、「④日常的な買物や飲食ができる店舗の充実」を除いて、前回の調査時と比較して満足度や不満足度に大きな変化は見られなかった。

・「④日常的な買物や飲食ができる店舗の充実」については、「満足している」及び「どちらかといえば満足している」の割合が12.9%低下し、「不満である」及び「どちらかといえば不満である」の割合が17.8%増加している

⇒その原因として、この6年の間に中心市街地にあった大型商業施設が閉店したこと等で、買い物をできる場所が少なくなっていたことが考えられる。

⇒また、県内最大級の大型商業施設が本市中心市街地以外に開業するなど、郊外型の商業施設が中心市街地以外に増加したことも原因のひとつであると考えられる。

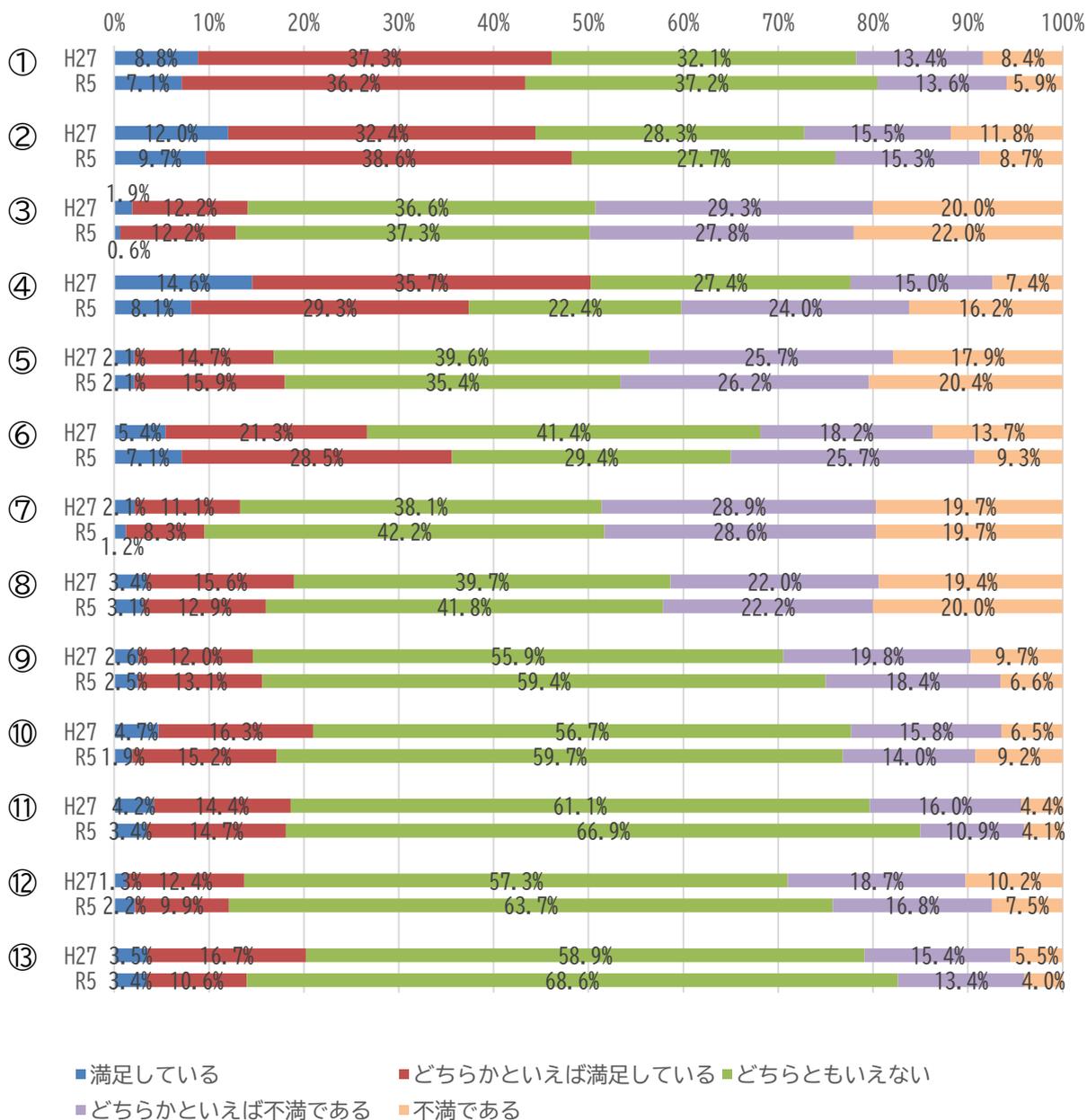
⇒今後、中心市街地で予定されている商業施設（「地域密着型商業施設整備事業」「いわき駅並木通り地区第一種市街地再開発事業」）において、市民のニーズを反映したテナントリーシングを行っていく必要がある。

・「③歩道のバリアフリー化など誰にでもやさしい歩行空間の充実」・「⑤歩いて楽しい魅力的な歩行空間の充実」については、前回調査時から大きな変化はないものの今後のまちづくりにおける重要度が高い一方で、「不満である」及び「どちらかといえば不満である」の割合が高い。

⇒今後、歩いて楽しいウォークアブルなまちづくりに向けて力を入れて進めていく必要がある。

調査2

現状の中心市街地に対する満足度



6. 今後の取組

今後もいわき駅周辺でのハード整備が続いていくことから、計画の終了後も官民が連携して事業を推進する体制を維持していく。

- ・令和5年度以降、計画期間内に完了できなかった3つの主要事業（「地域密着型商業施設整備事業」「いわき駅並木通り地区第一種市街地再開発事業」「都市公園整備事業（〈仮称〉磐城平城・城跡公園）」が、順次完了していく予定である。
- ・令和7年度には、いわき駅北口に松村総合病院の移転も予定されている。

また、新型コロナウイルス感染症の5類移行も踏まえ、落ち込んだ社会活動や経済活動のV字回復を目指し、様々なソフト面での取組みを展開していく。

- ・新たなチャレンジや活発な事業活動が営まれる場となるよう、新規創業者をはじめとした意欲ある事業者に対する支援を引き続き実施していく。
- ・高校生をはじめとした若者などの力も活用しながら、集客力のあるイベントの開催、居住環境の向上や歩いて楽しい魅力的な歩行空間の充実に向けた取組み等を行い、誰もが暮らしやすく、訪れたいくなる中心市街地を目指していく。

II. 目標ごとのフォローアップ結果

1. 各目標の達成状況

目標	目標指標	基準値	目標値	基準値から目標値までの幅の8割ライン	最新値		達成状況
					(数値)	(年月)	
生活環境の充実によるまちなか居住の促進	中心市街地内の居住人口	4,133人 (H28)	4,400人 (R4)	4,347人	4,223人	R5.3	<u>b2</u>
新規出店の促進による事業活動の活性化	中心市街地内の新規出店数	26件 (H23~27)	52件 (H29~R4)	47件	89件	R5.3	A
歴史・文化資源を活かした賑わいの創出	主要歴史・文化施設の入込客数	1,226,198人 (H27)	1,263,000人 (R4)	1,255,640人	642,747人	R5.3	<u>c</u>

<達成状況の分類>

A：目標達成、B1：概ね目標達成（基準値から目標値までの幅の8割ラインを超えている）、

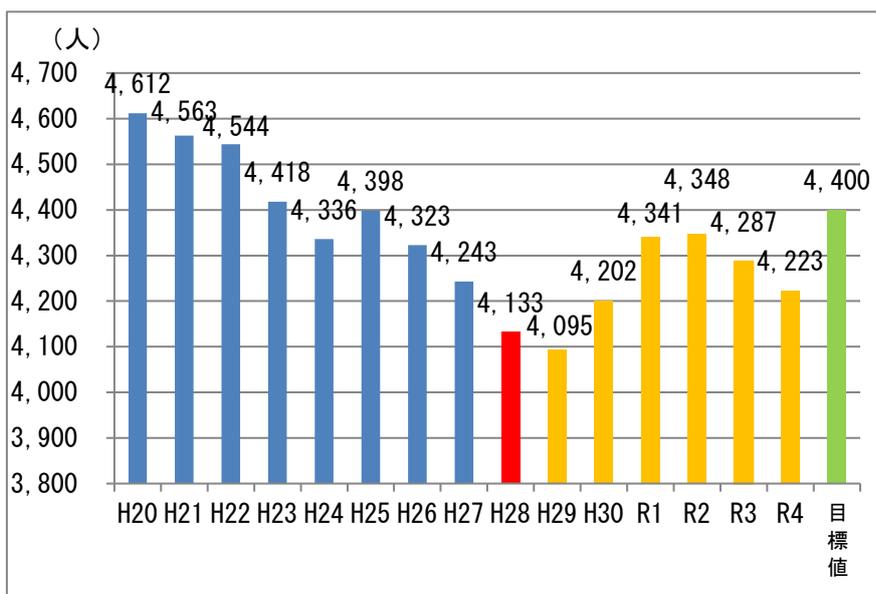
B2：基準値より改善（基準値から目標値までの幅の8割ラインには及ばない）、C：基準値に及ばない

※関連事業等が予定どおり進捗・完了しなかった場合は小文字（注：小文字のa、b1、b2、cは下線必要）

2. 目標指標ごとのフォローアップ結果

（1）中心市街地内の居住人口：目標の達成状況【b2】 ※目標値設定の考え方認定基本計画 P.61～P.63 参照

●調査結果と分析



年	人
H28	基準年値：4,133
H29	4,095
H30	4,202
R1	4,341
R2	4,348
R3	4,287
R4	4,223
	目標値：4,400

※調査方法：住民基本台帳

調査月：令和5年3月

調査主体：いわき市

調査対象：中心市街地の居住人口

<分析内容>

「中心市街地の居住人口」については、4,223人となり、目標の達成には至らなかったものの、基準値を上回ることができた。

目標を達成できなかった要因として、計画策定当初には、「いわき駅並木通り地区第一種市街地再開発事業」の完了によって居住人口の増加を見込んでいたが、事業が完了せず想定していた効果が発現しなかったことが挙げられる。

そうした中でも、平成29年から令和2年にかけては、中心市街地内に建設された複数の民間マンションの分譲が進んだことによって、居住人口の増加が見られている。

また、目標値の設定の基準年とした平成28年と比較し、市全体では居住人口が6.14%減となっているのに対し、中心市街地では2.18%増となっている。

こうしたことから、これまでの様々な取組みなどにより、生活環境が充実し、中心市街地が暮らしやすくなるまちとして市民に選ばれているものと考えられる。

●目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況及び事業効果

①. いわき駅並木通り地区第一種市街地再開発事業(いわき駅並木通り地区市街地再開発組合)

事業実施期間	平成 28 年度～令和 6 年度【実施中】 [認定基本計画：平成 28 年度～令和 5 年度]
事業概要	いわき駅西側区域において、まちなか居住のための住宅の供給とともに都市機能を充実させ、歩いて暮らせるコンパクトシティの実現や、高齢者や障がい者にもやさしいまちの実現を図り、中心市街地への定住を促進する。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（市街地再開発事業等）（国土交通省） （平成 29 年度～令和 4 年度）
事業目標値・最新値及び達成状況	【事業目標値】 364 人の増加 【最新値】 0 人 【達成状況】 未達成
達成した（出来なかった）理由	当初想定していなかった埋蔵文化財の発掘調査（住宅棟・商業業務棟部分）を令和 4 年 4 月から 12 月まで実施したことにより、進捗が遅れ、住宅棟の完成予定が令和 6 年 12 月へ延期となったため。
計画終了後の状況及び事業効果	事業未完了のため、事業の効果は発現していないものの、事業の一環として、「ずっと暮らしたいいわき」の実現に向けて「愛をつなごう！MIRAIWAKI PROJECT」を実施し、中心市街地の情報発信などを行っており、まちの活気や愛着の醸成に寄与している。
事業の今後	令和 6 年 12 月の完成に向け、住宅棟、商業業務棟及び駐車場棟の建築工事を進める。また、令和 5 年度は、駐車場部分と区画道路部分について埋蔵文化財の発掘調査を行う。 （棟別：商業業務棟は令和 6 年 3 月、駐車場棟は令和 6 年 9 月、住宅棟は令和 6 年 12 月完成予定。）

②. いわき都心型住宅整備事業（真砂不動産株式会社）

事業実施期間	平成 30 年度～【未】
事業概要	商業や福利機能を複合した住宅を整備し、都市機能の充実を図り、子育てしやすく、かつ高齢者にやさしいまちづくりの推進や中心市街地への定住を促進する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし。
事業目標値・最新値及び達成状況	【事業目標値】 228 人の増加 【最新値】 0 人 【達成状況】 未達成
達成した（出来なかった）理由	マンション需要の停滞により、住宅用途以外の整備を検討しているため。
計画終了後の状況及び事業効果	事業未実施のため、効果は発現していない。
事業の今後	事業内容を検討していく。

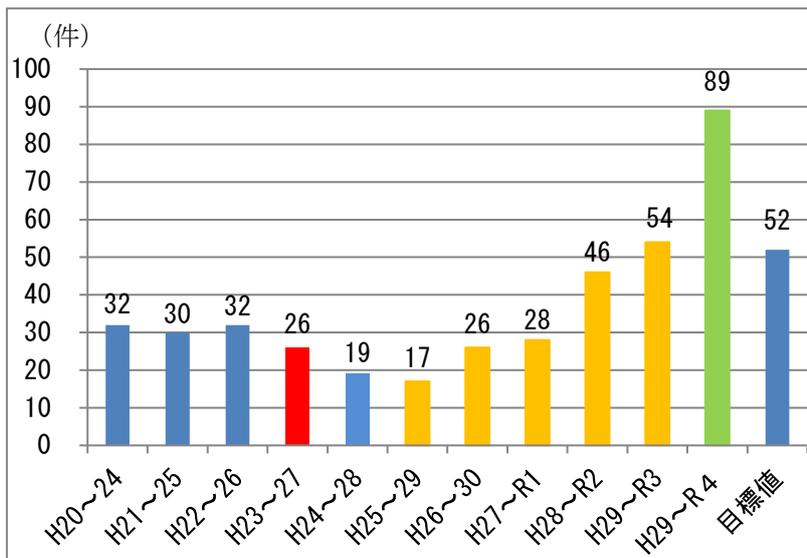
●今後の対策

「いわき駅並木通り地区第一種市街地再開発事業」が計画期間内に完了しなかったため、計画当初に見込んでいた効果が得られていない。しかしながら、令和 6 年 12 月の住宅棟の完成に向け現在工事を進めているところであり、事業の完了によって、居住人口の増加が見込まれることから、引き続き事業を推進していく。

また、併せて、居住環境向上のための取組みも実施していくことで、人を大切にしたい、楽しく暮らせるまちを目指していく。

(2) 中心市街地内の新規出店数：目標の達成状況【A】 ※目標値設定の考え方認定基本計画 P. 65～P. 67 参照

●調査結果と分析



年	件
H23～27	基準年値：26
H24～28	19
H25～29	17
H26～30	26
H27～R1	28
H28～R2	46
H29～R3	54
H29～R4	89
	目標値：52

※調査方法：いわき商工会議所への聞き取り調査及び現地調査
 調査月：令和5年3月
 調査主体：いわき商工会議所、いわき市
 調査対象：中心市街地内の新規出店数

〈分析内容〉

「中心市街地の新規出店数」については89件となり、目標を達成することができた。

特に令和4年度になり新規出店数が急増しているが、これは、令和5年1月に、計画の策定当初は予定されていなかった商業施設がいわき駅前に開業したことが寄与しているほか、これまで取り組んできた「創業者支援事業」や「店舗等新規出店支援事業」などにより、中心市街地において出店しやすい環境を作り出したためと考えている。

【参考】中心市街地の新規出店者数

H29	H30	R1	R2	R3	R4	過去6年間	
5件	12件	8件	19件	10件	35件	合計89件	平均14.8件

●目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況及び事業効果

①. 地域密着型商業施設整備事業（真砂不動産株式会社）

事業実施期間	平成29年度～【実施中】
事業概要	街区の再編等を行いながら、イトーヨーカドー平店をリニューアルするとともに、周辺地区の商業機能の強化を図り、まちなかに回遊性と賑わいを創出する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし。
事業目標値・最新値及び達成状況	【事業目標値】7件の増加 【最新値】0件 【達成状況】未達成
達成した（出来なかった）理由	計画策定当初に予定されていなかったイトーヨーカドーの閉店等により、計画期間内に事業が完了しなかったため。
計画終了後の状況及び事業効果	令和5年6月の環状交差点の供用開始及び令和6年2月の商業施設等の竣工に向けて、工事を進めているところである。
事業の今後	令和6年2月の商業施設の開業に向けて、引き続き事業を実施していくとともに、周辺の施設等との連携を図り、楽しく暮らせるまちづくりを推進していく。

②. (再掲) いわき駅並木通り地区第一種市街地再開発事業(いわき駅並木通り地区市街地再開発組合)

事業実施期間	平成 28 年度～令和 6 年度【実施中】 [認定基本計画：平成 28 年度～令和 5 年度]
事業概要	いわき駅西側区域において、まちなか居住のための住宅の供給とともに都市機能を充実させ、歩いて暮らせるコンパクトシティの実現や、高齢者や障がい者にもやさしいまちの実現を図り、中心市街地への定住を促進する。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（市街地再開発事業等）（国土交通省） （平成 29 年度～令和 4 年度）
事業目標値・最新値及び達成状況	【事業目標値】 10 件の増加 【最新値】 0 件 【達成状況】 未達成
達成した（出来なかった）理由	当初想定していなかった埋蔵文化財の発掘調査（住宅棟・商業業務棟部分）を令和 4 年 4 月から 12 月まで実施したことにより、進捗が遅れ、住宅棟の完成予定が令和 6 年 12 月へ延期となったため。
計画終了後の状況及び事業効果	事業未完了のため、事業の効果は発現していないものの、事業の一環として、「ずっと暮らしたいいわき」の実現に向けて「愛をつなごう！ MIRAIWAKI PROJECT」を実施し、中心市街地の情報発信などを行っており、まちの活気や愛着の醸成に寄与している。
事業の今後	令和 6 年 12 月の完成に向け住宅棟、商業業務棟及び駐車場棟の建築工事を進める。また、令和 5 年度は、駐車場部分と区画道路部分について埋蔵文化財の発掘調査を行う。 （棟別：商業業務棟は令和 6 年 3 月、駐車場棟は令和 6 年 9 月、住宅棟は令和 6 年 12 月完成予定。）

③. (再掲) いわき都心型住宅整備事業（真砂不動産株式会社）

事業実施期間	平成 30 年度～【未】
事業概要	商業や福利機能を複合した住宅を整備し、都市機能の充実を図り、子育てしやすく、かつ高齢者にやさしいまちづくりの推進や中心市街地への定住を促進する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし。
事業目標値・最新値及び達成状況	【事業目標値】 3 件の増加 【最新値】 0 件 【達成状況】 未達成
達成した（出来なかった）理由	マンション需要の停滞により、商業施設と一体的に整備する本事業を見直すこととしたため。
計画終了後の状況及び事業効果	事業未実施のため、効果は発現していない。
事業の今後	事業内容を検討していく。

④. まちなかを活用した起業家支援事業（特定非営利活動法人 TATAKIAGEJapan）

事業実施期間	平成 29 年度～【実施中】
事業概要	中心市街地の遊休不動産を活用し、起業家育成の環境を整備することにより、持続的な雇用機会の創出や I ターン者への就業機会の創出を図り、もって経済活動の育成と活性化を図る。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし。
事業目標値・最新値及び達成状況	【事業目標値】 2 件の増加 【最新値】 1 件 【達成状況】 未達成
達成した（出来なかった）理由	飲食店や小売業者が公園などの公共空間を活用し、キッチンカー等で出店をする「Park+（パークプラス）」事業を実施することで、持続的な雇用機会の創出を図ることができたが、新規出店数としては 1 件にとどまったため。
計画終了後の状況及び事業効果	これまで、「Park+（パークプラス）」事業を継続して実施してきたことで 48 名のクラフト作家と協力体制を築くことができ、中心市街地での新規出店に繋がった。
事業の今後	今後も事業を継続し、持続的な雇用機会の創出等を図ることで、新規出店を促進していく。

⑤. リノベーションまちづくり関連事業

(ア) 城下町景観づくり事業（たいらまちづくり株式会社）

事業実施期間	平成 29 年度～【実施中】
事業概要	歴史景観に配慮した案内看板や地図等の設置や、リノベーションした蔵等の古い建物への、新たな企業やテナントの誘致により、歴史を活用した魅力あるまちなみの形成と回遊性の向上、賑わいの創出を図る。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし。
事業目標値・最新値及び達成状況	【事業目標値】（関連事業全体で） 5 件の増加 【最新値】（関連事業全体で） 4 件 【達成状況】 未達成
達成した（出来なかった）理由	磐城平城・城跡公園の整備が計画より遅延していることにより、城下町の景観を一体的に整備する本事業の着手も遅れたため。
計画終了後の状況及び事業効果	磐城平城・城跡公園の整備遅延により、事業効果は発現していない。
事業の今後	磐城平城・城跡公園の整備完了に合わせて、リノベーションした歴史景観に配慮した案内看板や地図等の設置や、蔵等の古い建物への新たな企業やテナントの誘致により、歴史を活用した魅力あるまちなみの形成と回遊性の向上、賑わいの創出を図ることとしている。

(イ) リノベーションまちづくり支援事業（いわき市）

事業実施期間	平成 29 年度～【実施中】
事業概要	広く市民等に「リノベーションまちづくり」を知る機会を提供することで、地元事業者や創業予定者がリノベーションする事業を学び、空き店舗等を活用したまちづくりに参加するきっかけを作り、事業化へつなげていくことによって、民間による活発な事業活動の推進を図る。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし。
事業目標値・最新値及び達成状況	【事業目標値】（関連事業全体で）5 件の増加 【最新値】（関連事業全体で）4 件 【達成状況】未達成
達成した（出来なかった）理由	リノベーションセミナーやワークショップを実施し、民間による事業活動を実施した結果、周辺の空き店舗への4件の新規出店につながったものの、磐城平城・城跡公園の整備が計画より遅延していることにより、城下町景観づくり事業の着手が遅れたため、関連事業全体として目標を達成できなかった。
計画終了後の状況及び事業効果	「Park+（パークプラス）」事業を支援し、集客の仕組みをつくることにより、公園に新たな付加価値を創出する、エリアリノベーションを促した。
事業の今後	今後も民間による活発な事業活動の推進するため、必要な支援を実施していく。

⑥. 新規創業に向けた起業家支援事業

(ア) まちづくり基金の活用事業（mizDesigns 株式会社、いわき信用組合）

事業実施期間	平成 28 年度～【実施中】
事業概要	クラウドファンディングの仕組みを活用した創業者への資金サポートを実施することにより、新規の事業活動を育成し、経済活性化を図る。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし。
事業目標値・最新値及び進捗状況	【事業目標値】（関連事業全体で）5 件の増加 【最新値】（関連事業全体で）6 件 【達成状況】達成
達成した（出来なかった）理由	起業創業者への資金サポート等を継続して行うことで、持続的な新規創業環境の形成を図ることができたため。
計画終了後の状況及び事業効果	クラウドファンディングサービスを提供することで、中心市街地内の店舗を支援することができた。事業を実施してきたことにより、中心市街地において出店しやすい状況を作り出すことができている。
事業の今後	今後も引き続き、創業者への資金サポートを実施することにより、新規創業を促進していく。

(イ) いわき市商工業活性化事業（いわき市）

事業実施期間	平成 29 年度～【実施中】
事業概要	技術の開発、活路開拓等のための調査、研究及び計画策定やイベント、イメージアップ事業に対する支援を実施することにより、民間による活発な事業活動の促進を図る。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省） （平成 30 年度～令和 4 年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	【事業目標値】（関連事業全体で）5 件の増加 【最新値】（関連事業全体で）6 件 【達成状況】達成
達成した（出来なかった）理由	起業創業者への資金サポート等を継続して行うことで、持続的な新規創業環境の形成を図ることができたため。
計画終了後の状況及び事業効果	中心市街地の活性化に資するイベント等の事業費の一部を補助することで、賑わいの創出を図ることができた。事業を実施してきたことにより、中心市街地において出店しやすい状況を作り出すことができている。
事業の今後	今後も継続して支援していくことで、民間による活発な事業活動の促進を図る。

(ウ) 市創業者支援融資制度事業（いわき市）

事業実施期間	平成 15 年度～【実施中】
事業概要	創業者に対して事業に必要な資金を有利な条件で融資することで、新たな事業の芽を育み、民間による活発な事業活動の促進を図る。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし。
事業目標値・最新値及び達成状況	【事業目標値】（関連事業全体で）5 件の増加 【最新値】（関連事業全体で）6 件 【達成状況】達成
達成した（出来なかった）理由	起業創業者への資金サポート等を継続して行うことで、持続的な新規創業環境の形成を図ることができたため。
計画終了後の状況及び事業効果	中心市街地内の新規創業者からの申請がなく、効果は発現していないものの、これまで事業を実施してきたことにより、中心市街地において出店しやすい状況を作り出すことができている。
事業の今後	今後も引き続き、創業者に対して事業に必要な資金を有利な条件で融資するといった支援を行うことで、民間による活発な事業活動の促進を図る。

(工) 創業者支援事業 (いわき市)

事業実施期間	平成 28 年度～【実施中】
事業概要	創業を志す方に対し、いわき産業創造館創業者支援室を核として、創業者のビジネスを軌道に乗せるための総合的な支援を行うことで、新たな事業の芽を育み、民間による活発な事業活動の促進を図る。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし。
事業目標値・最新値及び進捗状況	【事業目標値】(関連事業全体で) 5 件の増加 【最新値】(関連事業全体で) 6 件 【達成状況】 達成
達成した(出来なかった)理由	起業創業者への資金サポート等を継続して行うことで、持続的な新規創業環境の形成を図ることができたため。
計画終了後の状況及び事業効果	創業を志す方や創業まもない方に対し、ビジネスを軌道に乗せるための総合的な支援を行ったことにより、新規出店の増加に寄与した。事業を実施してきたことにより、中心市街地において出店しやすい状況を作り出すことができています。
事業の今後	今後も引き続き、創業者のビジネスを軌道に乗せるための総合的な支援を行うことで民間による活発な事業活動の促進を図る。

(オ) 販路開拓・経営革新支援事業 (いわき市)

事業実施期間	平成 28 年度～【実施中】
事業概要	市内企業の販路開拓支援に向け、(公社)いわき産学官ネットワーク協会が実施するアドバイザー派遣や展示会出展補助、交流事業などの取組を支援することで、連携した取り組みを推進し、民間による活発な事業活動の促進を図る。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし。
事業目標値・最新値及び進捗状況	【事業目標値】(関連事業全体で) 5 件の増加 【最新値】(関連事業全体で) 6 件 【達成状況】 達成
達成した(出来なかった)理由	起業創業者への資金サポート等を継続して行うことで、持続的な新規創業環境の形成を図ることができたため。
計画終了後の状況及び事業効果	中心市街地内の新規創業者からの申請がなく、効果は発現していないものの、これまで事業を実施してきたことにより、中心市街地において出店しやすい状況を作り出すことができています。
事業の今後	今後も引き続き、市内企業の販路開拓に向けた支援を行う。

(カ) 店舗等新規出店支援事業 (いわき市)【新規追加】

事業実施期間	令和 2 年度～【実施中】
事業概要	市内の空き店舗等を利用して新規出店する事業者に対し、賃料の一部を支援することで、民間による活発な事業活動の促進を図る。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業(総務省) (令和 4 年度)
事業目標値・最新値及び達成状況	【最新値】 20 件
達成した(出来なかった)理由	創業者支援事業を利用する事業者への案内など、創業を考える事業者に広く周知するとともに、創業を後押しする制度構築ができたため。
計画終了後の状況及び事業効果	中心市街地にある空き店舗で新規出店を行う事業者を支援することで、賑わいの創出に寄与した。
事業の今後	今後も引き続き、新規出店者に対して支援を行うことで、民間による活発な事業活動の促進を図っていく。

●今後の対策

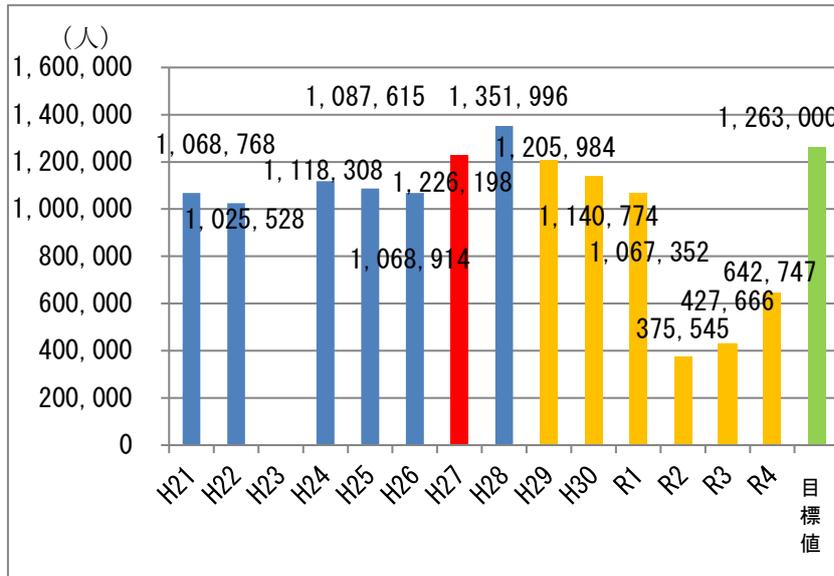
「いわき駅並木通り地区第一種市街地再開発事業」や「地域密着型商業施設整備事業」における商業施設が令和5年度末に開業する予定である。

そのため、市民のニーズを反映したテナントリーシングのための支援を行うとともに、魅力的なまちなかの個店の出店に繋がる施策に取り組む必要がある。

また、中心市街地が新たなチャレンジや活発な事業活動が営まれる場となるよう、新規創業者をはじめとした意欲ある事業者に対する支援についても引き続き実施していく。

(3) 主要歴史・文化施設の入込客数：目標の達成状況【c】 ※目標値設定の考え方認定基本計画 P.68～P.72 参照

●調査結果と分析



年	人
H27	基準年値：1,226,198
H28	1,351,996
H29	1,205,984
H30	1,140,774
R1	1,067,352
R2	375,545
R3	427,666
R4	642,747
	目標値：1,263,000

※調査方法：歴史・文化施設に聞き取り調査
 調査月：令和5年3月
 調査主体：いわき市
 調査対象：中心市街地の主要歴史・文化施設の入込客数

〈分析内容〉

「主要歴史・文化施設の入込客数」については642,747人となり、目標を達成することができなかった。これは、令和4年度においても、新型コロナウイルス感染症の影響により、市民の外出控えが続いたことによるものと考えられる。また、令和2年の新型コロナウイルス感染症の流行以降、他人との接触機会をなるべく控えろといった意識・行動の変化も影響しているものと考えられる。

しかしながら、ワクチン接種の普及や5類移行等により、社会活動や経済活動が徐々に戻りつつある。そのため、今後も引き続き、「いわき芸術文化交流館アリオス自主企画事業」や「いわき市立美術館教育普及事業」などの事業を継続して実施していくことにより、入込客数の増加を図っていく。

●目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況及び事業効果

①. いわき芸術文化交流館アリオス自主企画事業（いわき芸術文化交流館アリオス）

事業実施期間	平成28年度～【実施中】 [認定基本計画：平成28年度～令和4年度]
事業概要	クラシックコンサート・演劇等の鑑賞系事業や、アリオスに足を運ぶことのできない人たちのために生の演奏を届けるアウトリーチ活動、舞台芸術による人材育成・交流事業を実施することにより、賑わいの創出と文化芸術の発展を促進する。
国の支援措置名及び支援期間	文化芸術振興費補助金（劇場・音楽堂等活性化事業）（文部科学省）（平成29年度） 文化芸術振興費補助金による助成金（劇場・音楽堂等機能強化推進事業）（文部科学省）（平成30年度～令和4年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	【事業目標値】858,845人 【最新値】385,317人 【達成状況】未達成
達成した（出来なかった）理由	新型コロナウイルス感染症の影響により、市民の外出控えが続いたことが要因となったため。
計画終了後の状況及び事業効果	新型コロナウイルス感染症の流行により、令和2年度以降、思うように効果が発現しなかったが、中心市街地における賑わいの創出や文化芸術の発展に貢献している。
事業の今後	今後も引き続き事業を継続し、訪れたい魅力の魅力を育てるまちづくりを推進していく。

②. 磐城平城本丸跡地関連事業

(ア) 都市公園整備事業 (いわき市)

事業実施期間	平成 29 年度～【実施中】
事業概要	JR いわき駅北側の磐城平城本丸跡地を本市の歴史と文化を感じることができる公園として整備するとともに、地区内の既存公園・緑地について、安全で快適な歩行空間機能やまちなかにおける交流拠点機能を有する公園として再整備し、人・まち・文化がつながる平まちなかの創出について公園緑地の側面から支援を図る。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（都市公園・緑地等事業）（国土交通省）（平成 29 年度～令和 3 年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	【事業目標値】（関連事業全体で）25,980 人 【最新値】（関連事業全体で）0 人 【達成状況】未達成
達成した（出来なかった）理由	（仮称）磐城平城・城跡公園については、本丸御殿の礎石と思われる遺構等が良好な状態で出土したことを受け、文化関係団体から文化財の保存と活用に配慮した整備が必要との要望書が提出され、公園計画の見直しを行ったことから事業の進捗が遅れたため。
計画終了後の状況及び事業効果	事業が未完了のため、効果は発現していない。
事業の今後	令和 5 年度にアプローチ階段工事や園路舗装を行い、令和 6 年度に入り口付近の仕上げや看板設置を行う予定である。令和 6 年度中の供用開始を目指す。

(イ) 磐城平城本丸跡地に関する活用事業 (たいらまちづくり株式会社)

事業実施期間	平成 29 年度～【実施中】
事業概要	城下町であった認識を広め、磐城平城本丸跡地を活用することでまちづくりを促進し、人口の交流拡大を図る。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし。
事業目標値・最新値及び進捗状況	【事業目標値】（関連事業全体で）25,980 人 【最新値】（関連事業全体で）0 人 【達成状況】未達成
達成した（出来なかった）理由	磐城平城本丸跡地を公園として整備するため、磐城平城本丸跡地への立ち入りが禁止されているため。
計画終了後の状況及び事業効果	公園整備工事中のため、立ち入りはできないが、HP 等で磐城平城や安藤信正公について発信することで、中心市街地の歴史を知り、まちへの愛着心の醸成に寄与した。
事業の今後	引き続き、令和 6 年度の公園整備後の活用について検討していく。

③. いわきの歴史・文化・伝統を生かした人材育成事業（いわき市、いわき地域学會）

事業実施期間	平成 28 年度～【実施中】
事業概要	いわきの歴史・文化・伝統等の承継のため、歴史冊子の作成や地域学を開講することにより、市民の誇りを醸成するとともに、市民や来街者に個性あるまちの魅力を提供し、人口の交流拡大を図る。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし。
事業目標値・最新値及び進捗状況	【事業目標値】 304,263 人 【最新値】 182,838 人 【達成状況】 未達成
達成した（出来なかった）理由	新型コロナ感染症の影響により、市民の外出控えが続いたことが要因となったため。
計画終了後の状況及び事業効果	新型コロナ感染症の流行により、令和 2 年度以降、思うように効果が発現していないが、磐城平城等のいわき市についての歴史冊子を作成し、市内の小学生に配布をすることで、市民にいわき市の魅力を発信することができた。
事業の今後	今後も引き続き事業を継続し、市民にまちの魅力を発信していく。

④. いわき市立美術館と連携した文化芸術普及促進事業

(ア) いわき市立美術館教育普及事業（いわき市）

事業実施期間	平成 28 年度～【実施中】
事業概要	市立美術館において、多様な芸術表現等を体験できる、ワークショップ、講演会、美術講座等の開催や、市立美術館と連携した美術・アート作品等の展示を行うことにより、まちなかの賑わいの創出を図る。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし。
事業目標値・最新値及び進捗状況	【事業目標値】（関連事業全体で） 101,537 人 【最新値】（関連事業全体で） 74,592 人 【達成状況】 未達成
達成した（出来なかった）理由	新型コロナ感染症の影響により、市民の外出控えが続いたことが要因となったため。
計画終了後の状況及び事業効果	新型コロナ感染症の流行により、令和 2 年度以降、思うように効果が発現していないが、様々な常設展や企画展を開催し、賑わい創出の拠点として中心市街地活性化に寄与している。
事業の今後	今後も引き続き、魅力的な常設展や企画展を実施し、中心市街地の活性化に向けて、事業を推進していく。

(イ) 文化芸術の発展事業（特定非営利法人 Wunder ground、有限会社アイシステム）

事業実施期間	平成 27 年度～【未】
事業概要	まちなかの空き地・空き店舗を活用し、アーティストレジデンスの整備や、美術・アート作品の展示を行うことで、商店街と連携した民間の文化芸術の拠点を構築し、賑わいの創出と文化芸術の発展を促進する。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）
事業目標値・最新値及び進捗状況	【事業目標値】（関連事業全体で）101,537 人 【最新値】（関連事業全体で）74,592 人 【達成状況】未達成
達成した（出来なかった）理由	事業主体の財政状況により、事業着手に至らなかったため。
計画終了後の状況及び事業効果	事業未実施のため、効果は発現していない。
事業の今後	中心市街地の文化芸術の発展を促進し、賑わいを創出するため、事業の実施に向けて関係者と協議していく。

●今後の対策

ワクチン接種の普及や5類移行等により、社会活動や経済活動が徐々に戻りつつある。

また、高校生をはじめとした若者などの力も活用しながら、集客力のあるイベントの開催、居住環境の向上や歩いて楽しい魅力的な歩行空間の充実に向けた取組み等を行い、人流の回復にも努めることとしている。

こうした取組みと歩調を合わせ、今後も引き続き、「いわき芸術文化交流館アリオス自主企画事業」や「いわき市立美術館教育普及事業」などの事業を継続して実施していくことにより、入込客数の増加を図っていく。